



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小
～ 明日が楽しみな学校をめざして～」

隈府小学校
学校だより No.3
文責 芹川博文
4月24日(金)

力を合わせる 心をそろえる

～ 給食準備の姿 と 綺麗にならんだトイレのスリッパ から～

入学して2週間が過ぎました。わずか2週間ではありますが、それぞれの児童が、その学年らしい「表情」になっていく成長の早さに驚かされます。写真(左)は1年生の給食当番の様子。力を合わせて給食を運びます。一人ではできないことを、みんなで手分けして、やり遂げる経験を重ねていきます。写真(右)は、綺麗に並んだトイレのスリッパ。次に使う人のことを考えることで、自分の行動が変わります。みんなで生活するからこそ生まれる、協力や相手意識。日本の学校教育で大切にしてきた文化でもあります。



学校には、家と比べて様々な不便さがあります。面倒くさいこともあることでしょう。しかし、その「面倒くささ」の中に、自律へのカギが隠れているのかもしれません。

新しく隈府小に来られた先生から、「隈府の子は、『ありがとうございます』『お疲れ様です』と、よく声をかけてくれますね」との言葉をいただきました。力を合わせ、心をそろえる相手意識が育ち、爽やかな「風」を吹かせているとしたら嬉しいことです。

地域の方の熱い思い と「有難さ」

～ 手作り竹ぽっくり と 一冊の寄贈本 から～

地域の方の思いの「有難さ」を噛みしめました。写真(左)は、民生児童委員の菅原様から、「1年生の昔遊びの時、古くなっていたので」といただいた、新しい竹ぽっくりです。民芸品のようなクオリティの高さと、1年生でも分かるように、ペアごとに番号をつけ色分けしてある細やかな心遣いに、ただただ感動しました。



また、写真(右)は、学校運営協議会会長の益崎様から、「本が出ましたよ。是非、図書室に置いてください」と、寄贈していただいたプロ野球の大竹投手の本です。益崎様は、大竹投手が高校時代の恩師でもられます。かつての教え子と隈府小の子どもたちに対する熱い思いも一緒に受け取りました。本のタイトルは「覆す」。帯にも「幾多の逆境を力に変えた、メンタル、思考、身体づくり方」とあります。たくさんの児童に手に取ってほしい一冊です(お子様が借りてこられたら、是非、保護者の皆様も開いてみてください)。



「大舞台の重圧に、かつての自分なら屈していたかもしれません。しかし、それを楽しむことができたのは、勇気をもって変わり続ける日々があったからこそと思っています。」

(大竹 耕太郎 著「覆す」より)

「雑草魂」に学ぶ たくましさ

一斉に雑草が伸びてきました。草取りガマを手に草との格闘する日々が始まります。日に日に伸びる雑草のたくましさ。アスファルトの隙間だろうが、どんな場所でもグングン伸びる姿に、思わず「敵ながらあっぱれ」と、「雑草魂」に学ばされます。

家の人と別れて泣きながら登校する1年生がいました。その姿を見ていた一人の2年生が、「家を出るまでが面倒くさいんです。学校に来れば楽しいんだけど」と、つぶやきました。

「今が踏ん張りどころ」の子どもがいます。見守り、励ましながら、その子に合った支援をしていきたいものです。この2年生のような優しいまなざしで。今日は金曜日、一週間お疲れさまでした。

